

## 2020-2021年度 富山湾における初記録の魚類

木村知晴・草間 啓・稲村 修（魚津水族館）

First recorded fish in Toyama Bay, Sea of Japan (2020-2021).

Tomoharu KIMURA Satoshi KUSAMA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

### はじめに

富山湾は本州中央部の日本海に面した外洋性の湾であり、その範囲は能登半島先端から富山・新潟県境を結んだ線の内側とされることが多いが（富山県水産試験所，1991），ここでは原則的に石川・富山県境と富山・新潟県境を結んだ線の内側と定義する．魚津水族館（以下，当館とする）では漁業者などからの情報収集やスキューバ潜水調査などを行い，富山湾の魚類を中心とした海洋生物を調べており，温暖化などによる生物相の変化を明らかにするために記録している．

今回，2020年4月から2022年3月の期間に，富山湾においてこれまで記録のなかった魚類が5種確認されたので報告する．和名および学名は本村（2020）に従った．

### 記録

イトマキエイ科 Mobulidae

オニイトマキエイ *Mobula birostris*  
(Walbaum,1792) (図1A・B)

捕獲日：2020年10月13日

捕獲場所：富山県射水市堀岡沖約 1.5 km

水深 60m

捕獲方法：定置網

捕獲者：新徳漁業

2020年10月13日に射水市堀岡沖の定置

網で1個体が捕獲され，漁業者から映像の提供を受けた．映像で胸鰭の一部が変形した耳状の鰭があり，口は頭部前縁に位置し，上顎・下顎とも口裂周辺が一様に黒色で，第5鰓孔の鰓裂全域にかかる大きな三日月形の黒斑がある（図1B）などの特徴が確認され，佐藤ら（2010）および山口ら（2013）のオニイトマキエイの記載と一致したことから本種と同定した．

本種はインド - 西太平洋，ハワイ諸島，東太平洋，大西洋の熱帯から温帯域に分布し，日本近海では東京都小笠原諸島，青森県，静岡県，和歌山県，高知県，沖縄県において記録があるが（Marshall et al., 2009；柏木ら，2010；山口ら，2013），これまで日本海での記録はなく，本個体が初記録である．

なお，本個体は捕獲場所において漁業者が海に放流したため，標本および詳細な測定記録は得られなかった．

ソコダラ科 Macrouridae

テナガダラ *Coelorinchus macrochir*  
(Günther,1877) (図2)

捕獲日：2020年10月13日

捕獲場所：富山県魚津市青島沖

捕獲方法：刺し網

捕獲者：仁光丸

全長：356 mm

体長：340 mm

体重：133g

2021年11月16日に魚津市青島沖の刺し網で1個体が捕獲され、漁業者から個体の提供を受けた。第1背鰭と第2背鰭はよく離れ、背鰭第2棘の前縁は円滑で、吻端は鈍く、眼下隆起線は眼の前方で湾曲するなどの特徴が、中坊・甲斐(2013a)のテナガダラの記載と一致したことから本種と同定した。

本種は北海道～土佐湾の太平洋沿岸、豊後水道、新潟県、福井県、沖縄舟状海盆、朝鮮半島、オホーツク海南西部に生息するが(中坊・甲斐, 2013a)、これまで富山県での報告はなく、本個体が初記録である。

#### フサカサゴ科 Scorpaenidae

イソカサゴ *Scorpaenodes evides*  
(Jordan & Thompson, 1914) (図3)

確認日：2021年6月22日

確認場所：富山県魚津市本町沖約 50m  
水深 17m

撮影者：檜崎 樹

2021年6月22日に魚津市本町地先において、当館の職員が潜水調査中に砂地の斜面に設置された廃タイヤで形成された人工漁礁の隙間で1個体を目視確認して写真撮影した。写真で胸鰭に欠刻がなく鰭条数は18本、背鰭の棘条が13本で軟条が9本、頬に棘が2つあり、下鰓蓋骨上に1暗色斑があるなどの特徴が確認され、中坊・甲斐(2013b)のイソカサゴの記載と一致したことから本種と同定した。

本種は青森県、福島県、八丈島、小笠原

諸島、千葉県～宮崎県の太平洋沿岸、秋田県、新潟県～九州北西岸の日本海沿岸、大阪湾、屋久島、台湾南部、インド-太平洋に生息するが(中坊・甲斐, 2013b)、これまで富山県での報告はなく、本個体が初記録である。

#### ウバウオ科 Gobiesocidae

ミサキウバウオ *Lepadichthys misakius*  
(Tanaka, 1908) (図4A・B)

捕獲日：2021年9月5日

捕獲場所：富山県魚津市本町沖約 10m  
水深 4m

捕獲方法：手網

捕獲者：木村知晴

全長：61.7mm

体長：54.8mm

体重：2.5g

2021年9月5日に魚津市本町地先において潜水調査中に、コンクリートブロックの隙間をのぞき込んだ際に1個体を確認し、捕獲した。腹鰭は吸盤状で形は単型であり(図4B)、背鰭・臀鰭と尾鰭は鰭膜でつながり、吻は長くなく、背鰭軟条数が16本、臀鰭軟条数が13本、胸鰭軟条数26本であるという特徴が、林・萩原(2013)およびFujiwara and Motomura (2019)のミサキウバウオの記載と一致したことから本種と同定した。

本種は千葉県～和歌山県の太平洋沿岸、三宅島、大阪府、徳島県、宇和海、山口県日本海沿岸、島根県、九州北西岸、男女群島、屋久島、琉球列島、済州島、台湾南部などに生息するが(林・萩原, 2013, 吉郷, 2019)、これまで富山県での報告はなく、本

個体が初記録であり，日本海では北限の記録である．

ネズツポ科 Callionymidae

トビヌメリ *Repomucenus beniteguri*  
Jordan & Snyder, 1900 (図5)

確認日：2020年4月7日

確認場所：富山県魚津市本町沖約20m  
水深7m

撮影者：木村知晴

2020年4月7日に魚津市本町地先の砂底地において，潜水調査中に1個体を目視確認して写真撮影した．写真で第1背鰭はいずれの棘も糸状に伸長せず後半部が黒く，体側下部に小さな円形の白斑があるという特徴が確認され，中坊・土居内(2013)および岡村(2009b)のトビヌメリのメスマたはオス未成魚の記載と一致したことから本種と同定した．

本種は北海道，青森県，茨城県～高知県の太平洋沿岸，新潟県～長崎県の日本海沿岸，瀬戸内海，朝鮮半島南東岸，済州島に生息する(Nakabo and Jeon, 1986; 中坊・土居内, 2013)．本種は過去に富山湾で捕獲され当館で飼育していたとされるが(木村ら, 2020)，証拠となる標本や写真が確認されていないため，本個体を初記録とする．

なお，本個体を確認した潜水調査時の記録は草間ら(2022)にまとめられているが，本個体は未同定であったためリストから外されていた．

### 考察・まとめ

富山湾(富山県沿岸海域)における魚類の記録をまとめたものは，津田(1964；

1990)，魚津水族博物館(1997)，加野(2000)，伊串・稲村(2009; 2010; 2012)，南部(2013)，河野ら(2014)，木村ら(2020)，草間ら(2022)などがあり，草間ら(2022)は富山県沿岸で記録がある魚類は688種と報告している．これに今回報告した5種を加えると，富山湾から報告された魚類は693種となる．

これまで，富山湾におけるイトマキエイ科魚類としては，イトマキエイ *Mobula mobular* のみが記録されている(津田, 1990; 河野ら, 2014)．今回のオニイトマキエイが追加されたことで，富山湾産イトマキエイ科魚類は2種となった．今回確認されたオニイトマキエイは正確な体長などは計測できなかったが，提供された映像に同時に映っていた人や物と比較して，全長3m以上，体盤幅3m以上であり，成魚であると推測された．本種の主な生息域は熱帯海域であり，近縁種のナンヨウマンタ *Mobula alfredi* と比べて本種は外洋性で，回遊性が高いと考えられている(Marshall et al., 2009)．また，過去に本種の成魚が青森県の陸奥湾で捕獲された記録があり，対馬暖流に乗り日本海を北上し陸奥湾に到達したと推測されている(矢野ら, 2003)．本個体も同様に対馬暖流に乗り日本海に入り込み，偶発的に富山湾までやってきたものと推測された．本種は遊泳力が強く，捕獲が10月であったことから，南下の途中であった可能性も考えられる．

富山湾におけるソコダラ科魚類としては，ヤリヒゲ *Coelorinchus multispinulosus* やイチモンジヒゲ *C. kamoharai* など4種が記録されている(河野ら, 2014)．今回のテナガダラが追加されたことにより，富山湾

産ソコダラ科魚類は5種となった。テナガダラは、北海道～沖縄県まで広く生息が確認されているが(中坊・甲斐, 2013a), 東北沖太平洋の上部漸深海帯に位置する大陸斜面上部においては底魚群集で優先していることが知られており(橋本ら, 1982; Fujiwara et al., 2005), 深海性魚類と考えられることから, 富山湾には北方より来遊してきたものと推測される。捕獲された正確な水深は不明であるが, 10月の捕獲であることから水深200m以深の低水温の深海域で捕獲されたと考えられる。

富山湾におけるフサカサゴ科魚類としては, ミノカサゴ *Pterois lunulata* やイズカサゴ *Scorpaena neglecta* など7種が記録されている(魚津水族博物館, 1997; 河野ら, 2014)。今回のイソカサゴが追加されたことにより, 富山湾産フサカサゴ科魚類は8種となった。イソカサゴは日本海沿岸から広く報告があるため(河野, 2014), これまで報告がなかったものの, 富山湾沿岸にも生息していた可能性がある。ただし, 本種は隙間の多い岩礁域を好むため, そのような環境の少ない富山湾奥部では定着しにくいと推測され, 生息個体数は少ないものと考えられる。今回見つかった場所は, 砂地に設置された人工漁礁の隙間であり, この漁礁が本種の好む環境を作り出したと推測された。

富山湾におけるウバウオ科魚類については南部・林(2009)にまとめられており, ウバウオ *Aspasma ubauo* とツルウバウオ *Aspasmichthys ciconiae* の2種が記録されている。今回のミサキウバウオが追加されたことにより, 富山湾産ウバウオ科魚類は3種となった。ウバウオ科魚類はいずれも

小型で浅海の岩礁域などに生息するため(岡村, 2009a), 漁業や釣りで捕獲される可能性は低い。本種のような小型の底生魚類の調査には, スキューバ潜水による確認や捕獲が有効である。ミサキウバウオは日本海では島根県以南で生息が確認されているが, 鳥取県以北の日本海からは報告がない。近縁種のウバウオは1年で成熟して死亡する年魚と考えられており(塩垣・道津, 1971a), 本種も同様の可能性が高い。また, ミサキウバウオの仔稚魚は浮遊性で浮遊生活期間は30日前後とされ(塩垣・道津, 1971b; 塩垣, 2014), 対馬暖流に流されて移動すると考えられる。今回の捕獲された個体は成魚であり, 幼魚が富山湾より南方海域から流されてきて, 富山湾で成長した可能性が考えられる。

富山湾におけるネズッコ科魚類としては, ネズミゴチ *Callionymus curvicornis* やヤマドリ *Neosynchiropus ijimai* など7種が記録されている(河野ら, 2014; 木村ら, 2020)。今回のトビヌメリが追加されたことにより, 富山湾産ネズッコ科魚類は8種となった。トビヌメリは日本海沿岸の広い範囲から報告があることから(河野ら, 2014), 本種はこれまで富山県では報告がなかったものの, 従前から富山湾沿岸にも定着していると考えられる。著者の一人の稲村は, 当館に搬入されたトビヌメリ1個体を記憶しているが, 写真や標本が残っておらず確定できない状況であった。今回は潜水調査により確認されているものの, 個体数は少ない可能性がある。

以上のように, 今回はこれまで記録のない魚類が5種確認できた。今後も富山湾の魚類の情報を蓄積し, 魚類相の変動を明ら

かにしていきたい。

## 謝辞

オニイトマキエイの映像を提供していただいた滝沢司氏，テナガダラを提供していただいた山崎栄一氏，潜水調査や特別採捕を許可していただいた富山県水産漁港課およびJF魚津，生物の輸送や計測などにご協力いただいた当館職員の皆様に深謝いたします。

## 引用文献

Fujiwara Kunihiro, Katayama

Satoshi, Omori Michio, Kitagawa

Daiji. 2005. Seasonal distribution of *Abysmicola macrochie* (Günther) on the upper continental slope off the southern Tohoku coast, northeastern Japan, in relation to their life history. Bull. Jpn. Soc. Fish. Oceanogr. 69(2):83-90.

Fujiwara Kyoji, Motomura Hiroyuki. 2019.

Validity of *Lepadichthys misakius* (Tanaka 1908) and redescription of *Lepadichthys frenatus* Waite 1904 (Gobiesocidae: Diademichthyinae). Zootaxa 4551(3):275-298.

林 公義・萩原清司. 2013. ウバウオ科，中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1326-1329.

伊串祐紀・稲村 修. 2009. 魚津市沿岸で見られる魚類の季節変動 - 予備調査 -. 魚津水族博物館年報 第 19 号 : 53-55.

伊串祐紀・稲村 修. 2010. 2009 年富山湾沿岸における魚類相と季節変動. 魚津水族博物館年報第 20 号 : 44-54.

伊串祐紀・稲村 修. 2012. 2010 年富山湾沿岸における魚類相. 魚津水族博物館年報第 21 号 : 34-37.

加野泰男. 2000. 魚津海岸生物調査報告—確認生物のリスト及び記録—. 魚津水族博物館年報第 10 号 : 49-65.

柏木 努・伊藤 隆・佐藤文彦. 2010. 撮影記録に基づく日本産リーフオニイトマキエイ *Manta alfredi* とオニイトマキエイ *M. birostris* の出現状況. 板鯰類研究会報 第 46 号 : 20-27.

河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安澤 弥・池田 怜・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎 淳・森 俊郎・長濱達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船木信一 . 2014. 日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告 第 11 号 : 1-30.

木村知晴・西馬和沙・不破光大・稲村 修. 2020. 2008-2018 年に富山湾で新たに記録した魚類. 魚津水族博物館年報 第 29 号 : 49-78.

草間 啓・木村知晴・西馬和沙・檜崎 樹・稲村 修. 2022. 2015-2021 年に潜水調査で確認された魚津市沿岸の魚類. 魚津水族博物館年報 第 31 号, 51-78.

Marshall Andrea D., Leonard J.V.

Compagno and Michael B. Bennett.

2009. Redescription of the genus *Manta* with resurrection of *Manta alfredi* (Kreffft, 1868) (Chondrichthyes ; Myliobatoidei ; Mobulidae). Zootaxa, 2301: 1-28.

本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. こ

- れまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 1-560.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. ネズツポ科, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1331-1346.
- Nakabo Tetsuji and Jeon Sang-Rin. 1986. New record of the dragonet *Repomucenus beniteguri* (Callionymidae) from Korea. Japanese Journal of Ichthyology Vol. 33, No. 2:195-196.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013a. ソコダラ科, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 493-512.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013b. フサカサゴ科, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 683-705.
- 南部久男. 2013. 文献による富山湾産魚類目録. 富山市科学博物館研究報告 第 37 号 : 153-162.
- 南部久男・林 公義. 2009. 富山湾のウバウオ科魚類. 富山市科学博物館研究報告 第 32 号 : 21-123.
- 岡村 収. 2009a. ウバウオ科解説, 岡村 収・尼岡邦夫 編. 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 572.
- 岡村 収. 2009b. トビヌメリ解説, 岡村 収・尼岡邦夫 編. 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 575.
- 佐藤圭一・内田詮三・西田清徳・戸田 実・小畑 洋・松本葉介・北谷佳万・三浦晴彦. 2010. 南日本におけるオニイトマキエイ属 (Genus *Manta*) 2 種の記録と分類, 同定および標準和名の提唱. 板鯰類研究会報 第 46 号 : 11-19.
- 塩垣 優. 2014. ウバウオ亜目解説, 冲山宗雄 編. 日本産 稚魚図鑑 第二版. 東海大学出版会, 1203-1207.
- 塩垣 優・道津喜衛. 1971a. ウバウオの生活史. 魚類学雑誌, 18 (2) : 76-84.
- 塩垣 優・道津喜衛. 1971b. ミサキウバウオとツルウバウオの仔稚魚. 魚類学雑誌, 18 (2) : 85-89.
- 富山県水産試験所. 1991. 富山湾のあらまし. とやまの魚. 富山県水産試験場, 4.
- 津田武美. 1964. 富山湾産魚類分布目録. はばたき 第 2 号 : 41-48.
- 津田武美. 1990. 原色日本海産魚類図鑑. 桂書房, 富山. 1-612.
- 魚津水族博物館. 1997. 富山湾産魚類リストおよび富山湾産希少魚類の採集記録. 1-79.
- 山口敦子・柳下直己・青沼佳方・吉野哲夫. 2013. トビエイ科, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 228-231.
- 矢野和成・杉本 匡・野村勝義. 2003. 青森県陸奥湾で捕獲されたオニイトマキエイとジンベエザメ. 板鯰類研究会報 第 39 号 : 8-13.
- 吉郷英範. 2019. 島根県の沿岸浅所から採集された 13 種の魚類. ホシザキグリーン財団研究報告 第 22 号 : 191-202.



図1 オニイトマキエイ *Mobula birostris* A:全体像 B:腹面(頭部)



図2 テナガダラ *Coelorinchus macrochir*



図3 イソカサゴ *Scorpaenodes evides*



図4 ミサキウバウオ *Lepadichthys misakius* A: 生時側面 B:ホルマリン標本腹面



図5 トビヌメリ *Repomucenus beniteguri*

**魚津水族博物館年報 第 32 号**

**ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No.32**

2023 年 3 月 編集

**編集／魚津水族博物館**

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail [suizoku@city.uozu.toyama.jp](mailto:suizoku@city.uozu.toyama.jp)